


## 団体の概要書

団体名	(ふりがな) はいしよく さーびす すばる 配食サービス スバル		
主たる事務所の所在地	〒547-0026 大阪市平野区喜連西 3-13-14		
代表者氏名	(ふりがな) つばいこうじ 壺井幸二	構成員数	15 人
設立(活動開始)年月	2004年 12月	NPO法人 認証年月	年 月
主な活動地域	平野区全域及び隣接する東住吉区		
ホームページの有無	I 有 (URL ) / (無)		
団体の設立経緯	<p>スバルは、平成16年12月に平野区の配食を希望する高齢者が数ヶ月から半年の間、待機を強いられる状況を改善したいと考える有志で立ち上げた団体です。スバルでは、地域の方々が配食サービスを身近な信頼のおける存在として認識し、誰でもが支度ができない状況になった際、気軽に安心して利用できるよう次に示す基本原則に基づいてサービスを実施しています。</p> <p>スバルの基本原則</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 良質の食事を低価格で提供すること 食べ残しのない食事をつくる(手作りで彩りのある食事) 個々の身体状況に合った食事づくり(個別対応) 老齢福祉年金受給者、生活保護受給者が利用可能な価格設定</li> <li>2. 待機ゼロを継続すること 配食をライフラインと位置付け、利用希望者を即日受入れ可能な体制を維持する</li> <li>3. 利用者の生活支援を行うこと 家族や介護保険サービス提供者から支援を受けられない人へ買い物、大工仕事、公的機関への手続き、調べ事(情報収集と提供)などを行う</li> <li>4. 支援制度の網から漏れている人を制度に繋げる 利用者の中で様々な事情により公的な支援を受けられない人々の問題解決の手助けを行う(大阪府及び大阪市社協・地域介護事業者への通報及び連携)</li> <li>5. 利用者とのコミュニケーション 配食事業を通して日頃から利用者とのコミュニケーションを深め、サービスの利用者・提供者の垣根を越えた関係、例えばかつてのご近所同士や家族のような関係を構築し、地域の要支援者が潤いのある生活をおくれるよう支援する</li> </ol>		
これまでの主な活動実績	平成17年度配食実績	稼働日数	313日 18,036食
	平成18年度配食実績	稼働日数	314日 27,103食
	平成19年度配食予測	稼働日数	314日 35,701食
	詳細は別紙をご参照下さい		
事業年度	4月 1日 から 3月 31日		
活動分野	※下表「活動分野別リスト」の番号をご記入ください。 1		

<p>貴団体の活動において、NPOならではの特性を活かしている点</p>	<p>スバルは、現在のところNPO化を目指す任意団体ですが、平野区内で配食を実施している事業所との相違点（換言すれば特長）は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待機ゼロ（大阪市の委託を受けていないので即日対応が可能）</li> <li>・きめ細かな個別対応（アレルギー対応やとろみ食などを実施）</li> <li>・各種支援事業（制度の啓蒙や通報など）</li> <li>・年齢や介護の程度にかかわらずサービスを提供する</li> </ul> <p>生活支援型配食サービスを補完しております</p>
<p>貴団体の活動を多くの市民に周知するためにやっていること</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.各家庭への配布や社協や在宅介護事業への設置</li> <li>2.イベントの実施「介護なんでも相談」（春秋年2回と随時）</li> </ol>
<p>貴団体の活動における現在の課題</p>	<p>平野区は、独居高齢者等支援を必要とする人々が数多く居住する地域です。また、障害者を子に持つ高齢者の世帯、父子・母子家庭など公的サービスの対象にされていない低所得者の生活は、困難を極め1食の弁当を2回に分けて凌いでおられる方も少なからずおられます。このような事情からスバルの利用者は、年々確実に増加しています。これに対応するには事業規模の拡大が必要であり、新たな設備投資・要員の拡大など課題は山積しています。</p> <p>他方利用者の性格上、設備投資にかかる費用を利用料に転嫁することは事実上不可能であり、メンバーの抛出も限界にきております。</p>
<p>貴団体の活動の将来展望</p>	<p>個々の利用者として接していると、高齢者の暮らしに関する問題が浮かび上がってきます。多くの独居高齢者は、朝起きるとテレビのスイッチを入れ、床に就く前にそのスイッチを切る。その間、誰とも会話することなく、一方的に流れてくるテレビの音声を聞いているだけの毎日です。心の中は、大きな空洞がポツカリと広がり、自らの体調の異変に気づくこともなく、時間だけが経過して行きます。</p> <p>高齢者の方々にとって必要なことは、年金や医療・介護のサービスを手厚くすることも必要ですが、何よりも社会の一員であることを実感できるコミュニティの構築ではないでしょうか。家族はもとより、ご近所や友人の方々と常に交流があって、お互いに思いやりをもって会話ができること。何でもいいからテーマを共有できる人々との一緒に活動できること。もっと踏み込むならば、高齢者や障害者など社会的弱者とされる方々が気軽に継続的に参加できるボランティアや就労機会の創出も必要ではないでしょうか。</p> <p>これらは、制度で解決できるものではなく、家族や地域でそこに住む人々の暮らしを考え、積極的に解決に向けて行動することであると考えます。</p> <p>我々は、今後地域に住む人々、地域にかかわりをもっている人々と情報交換を進めて、安心して、イキイキとした毎日を過ごせる地域を目指したいと考えています。</p> <p>これらの展望に向けて、関係団体・事業所等と連絡を密にして、共有できる部分からスタートしたいと考えております。</p>

<p>当基金に登録を希望する理由</p>	<p>スバルの基本原則は、発足した平成16年12月に策定したものです。「利用者への生活支援」や「支援制度の網から漏れている人を制度に繋げる」活動は、配食事業の特性（要支援者と毎日顔を合わせ、コミュニケーションをしている中で問題点を見つけることができる）を生かした支援活動です。</p> <p>高齢者・障害者への支援を考えると公的な支援ネットは、自発的に支援を望んでおられる方々には有効な手段ではありますが、支援ネットに関する情報網からはみ出している人、支援の理解が不足しているため状況の悪化が進んでいるにもかかわらず支援を拒んでいる人などが数多くおられことに驚かされ、過去3年の活動を通して孤独死や困窮から救えた事案は数多くあります。スバルは、事業の性質上このような方々との接点を持つことの多い団体です。この特性は、今後支援活動を展開するにあたって、地域の問題の掘り起こし（地域のアンテナとして）・制度や事業の啓蒙（情報の発信の担い手として）等の役割が期待できます。</p>
<p>貴団体が当基金をPRするためにできること</p>	<p>前述のとおり、スバルは地域に内包する要支援者との接点を持つ団体です。利用者との日頃のコミュニケーションの一環として制度や事業の啓蒙など、情報の発信の担い手としての役割が期待できます。</p>
<p>市民に対するPR</p>	<p>※市民に向けPRメッセージをお書きください。</p> <p>高齢・障害は、誰にでも訪れることです。その誰でもが、不自由な状況になったときでも家族、ご近所の方々に支えられて、人間らしく人生をおくることは、人としての権利であると考えています。また、支える側は、共にこの時代を生きていくことに「よろこび」を感じられる行為でもあります。配食だけではなく、要支援者を支える様々な事業が興り多くの人々が協働・共生できる環境が広く行き渡ることを願っています。</p>
<p>確認事項</p>	<p>この申請書に記載する事項に間違いありません。</p> <p>代表者氏名 <u>                    壺井幸二                    </u> </p> <p>(氏名自署の場合は印不要)</p>